

# そよかぜ 10月園便り

令和4年10月3日（月）  
西東京市立そよかぜ保育園

日が暮れるのがすっかり早くなりました。  
個人的に「秋」は一年で一番好きな季節（食べる物も美味しいし、出かけるのにはちょうどいい気候だし、おしゃれをするのも楽しいし…）なのですが、早く暗くなってしまうのは一抹の寂しさを感じますね。

9月もあっという間に過ぎてしまい、改めてこの夏を振り返った時に、特筆すべきことが一つあります。それは「**草履**」を履く子どもたちが増えたこと。そこで、「草履」のお話を少し…

ご存知の通り、そよかぜ保育園では「**裸足**」で過ごすことを大切にしています。室内では一年を通して裸足。0・1歳クラスでは散歩先までは散歩車で出かけ、目的地に着いたら状況を見ながら裸足で遊びます。もちろん2歳から上のクラスでも、状況に応じて戸外でも裸足で遊ぶことがあります。

裸足で過ごすことで足指が自由に動き、血の巡りも良くなります。また、転びそうになった時など足指（特に親指）にぐっと力を入れて踏ん張ることができます。  
何より裸足でいると、全身の感覚（皮膚・筋肉・触覚）を刺激して**丈夫な体作り**に繋がります。

以上のようなことから、本当はいつも裸足が良いのだけれど、戸外での安全の確保はなかなか難しいし、アスファルトの地面は固いし…となると、なるべく裸足に近い履き物が望ましいと思った時に、最もふさわしいのは「**草履**」なのです。

特に足の成長が著しい幼児期には、足を包み込まずに解放した状態で指を動かせる草履がとても良いのです！また足指・足の裏をよく使う（刺激する）ことで体全体や神経、脳にも良い刺激を与える、加えて**鼻緒**のある草履は浮指の改善や土踏まずの形状促進、ふくらはぎの発達などにも繋がります。何より、長い距離歩いても疲れない、通気性に富んでいて蒸れないなど、足の発達に良い効果がいっぱいです。

もしかしたら「何でもっと早く教えてくれなかったの？」と言われてしまうかもしれませんね。来年はぜひ「草履」を履いて、更にパワーアップした毎日を過ごしましょう！

ちなみに初夏から秋口にかけての使用がお勧めです。  
3歳クラスから履けるとお思いますので、是非お試しください。  
ご用の節は事務所までお声かけを…！

<https://soyokaze-hoikuen.net/>



## クラス通信



秋らしい涼しい風が吹いて、散歩にたくさん出かけられる季節になりました。散歩先でも動いて遊ぶ子が増え、興味のあるところへ行ってみたり、見つけた黄・赤・茶色の**落ち葉**を拾ってはちぎってみたり、ぐちゃっと握ってみたり、**アリ**を見つけて「あっ！」と指差して教えてくれます。園庭でも大きな**砂山**にハイハイで登ってみたり、カップに砂を出し入れして、自分から砂や水に触れて楽しむ姿が増えてきました。食欲の秋、運動の秋…良く動いて遊び、たくさん食べて、しっかり眠る生活を送り、元気に過ごしていきたいです。

暑い日が続いた先月でしたが木陰を探しながら、散歩に出掛けました。

**木漏れ日の光**とともにどこからともなく涼しい風が吹いて「かぜ」「かぜ気持ちいい」と葉っぱの揺れに手を伸ばし心地よい風が通り過ぎていくのを一緒に感じながら、時々蝉の鳴き声を聞き、「しー、蝉が鳴いてるよ」「どこどこ」とじーっと目を凝らす子ども達の瞳には**秋の空**が写っていました。

今月は体調を考慮しながら散歩に出掛けどんぐりを拾い、トンボ、バッタを追いかけて小さい秋をたくさん探して遊んでいきたいです。



先月は、天気の良い日に散歩に出掛けました。公園に着くと「**蝉**いるかな？」「**蝉**の抜け殻あるかな？」などと大人と一緒に**探索**…。蝉の鳴き声に耳を澄ませ、どこの木にとまっているのか探し始めます。鳴き声はしても、蝉の姿はなかなか見つけられず…ようやく高い木にとまる蝉を見つけ「いた！」と嬉しそうなすずめ組です。虫が苦手な子もいますが、大人が捕まえた蝉を少し触ってみたり、友達と一緒に観察したり、抜け殻を洋服につけたりとそれぞれ楽しむ姿が見られましたよ。

今月は、足を延ばして少し遠くの公園にも散歩に出掛けて秋を探しに行きます。

だんだんと季節が変わって、朝夕涼しくなり、虫の声は、セミから鈴虫の声に変わったりと…秋らしくなってきましたね。子どもたちも、そんな移り変わりを戸外に出かけて楽しんでますよ。散歩先では、森の中に入ると、「**どんぐり**」発見！！「みどりだよ！！」と**緑**のどんぐりがたくさん落ちていました。木の上を見上げるとしっかり木について、どんぐりの帽子にしっかりと守られています。「まだ茶色じゃないね」と言いつつ、落ちていたどんぐりを夢中になって集め、自分でリュックにしまって大事に持ち帰りお土産にしていますよ。

9月は少し遠出のお散歩にも出かけました。久しぶりに出かけて「疲れた！」と声に出しながらも“公園は楽しかったし、頑張って歩ききった”と満足した様子です。

心地よくお散歩を楽しめる季節。秋を満喫しながら色々な公園へお散歩に出かけていきたいと思います。



秋風が心地よく、散歩先にはバッタや蝶々がたくさん飛び回っている過ごしやすい季節となりました。毎日「今日お散歩に行こう！」と朝から元気な声が響いています。

散歩に行く準備が早く終わり、お友達がみんな揃うのを待っている間のいわゆる“すき間時間”も楽しく且つ身体を動かせる時間。例えば、両手をあげてキラキラさせたり、両手を重ね上に伸ばして背伸び、10数え終えるまで頑張る片足立ち、背中に両手を隠したままの状態



で大人が言った指と同じ指を出す等々、「こんなのできる??」と言いながら“真似っこ遊び”をしています。

今あげた例の中にも、手首を返す動き、背筋を伸ばす動き、足指を立てる動き、体幹が育つ動き、ボデーイメージを育てる動き、手を開くこと、見て真似をすること、、、等々、子どもたちの育ちに大きく関わる要素がたくさん。

また、保育の中では“すき間時間”も、次の活動に向けたワンクッションとなり、メリハリをつける大事な時間です。つばめ組のお友達はそんなことよりも“楽しい時間”となっていますが。

風が心地よい季節となり、晴れの日も夏から秋へと空全体が変わってきましたね。

暑さが和らぎ、少しずつまた散歩に出かけられるようになりました。最近では、クラスみんなで散歩の行き先や遊びを決めることもあります。はじめは「タコ公園！タコ公園！」「ドッジボールがいいよね？ね？」と自分の意見を話していたところから、段々と友達の意見にも耳を傾け、「前もタコ公園に行ったから今日は違うところにしようよ」という意見や、「縄跳びする場所がある公園がいい」等、友だちの話を聞きながら“話し合い”をする姿が見られるようになってきました。引き続き、子ども達同士の話し合いの機会を大切にしていきたいと思います。

先月末に自分で縄を編んでから、毎日朝も夕方も、縄跳びを楽しんでいます。最近はお部屋の中だけでなく、散歩先では走り縄跳びにも挑戦していますよ。



## 10月 園行事

- |                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| 3日（月）年長藤井先生交流   | 13日（木）布団乾燥          |
| 5日（水）年長交流保育     | 15日（土）運動会（雨天延期：18日） |
| 6日（木）内科検診       | ※詳細は別途お便りを配布します     |
| 7日（金）年長お泊り保育説明会 | 27日（火）誕生会・避難訓練      |
| 11日（火）運動会リハーサル  | 31日（月）鮭祭り           |

一週間の始まり 気持ちを切り替え、いざ出陣！ 忙しい日常が始まる月曜日。  
すっきり爽やかな秋空に、「今日は何処へお散歩行くのかな？」と思いを馳せながら出勤です。  
マスクで覆われ、黙って食事をする生活。下火になっているとはいえまだまだ油断できないコロナ。  
こんな毎日がいつまで続くのでしょうか。そろそろ終わりにしたいですね。

## 通園バスの事故から

「また？」「なぜ！ありえない。」

事故の報に憤りをもって聞きました。

法人内でも園バスなどを使い、移動することが沢山あります。活動の幅を広げ、より豊かな経験をさせたいと願って取り組んできました。

運行に際しては、細心の注意を払い、走行中の安全運転は勿論の事、乗り降りに際し、子どもの所在を確認し、忘れ物はないかと最終確認をし、次の行動に移るようにしています。が 改めて気持ちを引き締めようと、職員一同話し合っている処です。

政府は通園などに使用するバスへの安全装置を設置義務化する方向で調整に入り、10月中にまとめると報じられています。併せてヒューマンエラーを防ぐためのマニュアルも作成するとのこと。

これらの整備を否定する訳ではないのですが、抜本的な改善策に至らないもどかしさを感じています。

保育園の職員配置基準は1948年児童福祉法が制定された時から変わっていないことが沢山あります。例えば4・5歳児は子ども30人を一人の保育士が、3歳児は20人を一人の保育士という配置基準です。「日中8時間30名の子どもを一人で保育する。」という仕組みです。

明日を見通した計画をたて、食事・遊び・排泄・睡眠等々が取り組まれ、それら様々な活動を記録する仕事を、30名の子どもを見ながら行う。それが現行の基準です。加えて朝7時から、また夕方8時（7時）の交代勤務もしなければなりません。開所時間が8時間だった頃のままなのですから、無理があり過ぎます。30名の子ども達を一人が面倒を見る場面を想像してみてください。この現場の大変さを都県・市区町村の補助金が上乘せされ、複数配置が可能となっているのです。国の基準ではないので、自治体間格差もあり、区部と市部では大きく差があります。同じ都民なのにな…と矛盾を感じています。

近年保育士の処遇を改善するため、「補助金」という形で課金されてきました。有難いことです。が、なぜ補助金なのでしょう。不安定さがつきまといまいます。公定価格（年齢別に定められている保育単価）にしっかり組み込まないのはなぜだろうと疑問に思います。

子どもの成長にとってとても大事な保育園時代です。配置基準を見直し、受け持つ人数を減らし、一人一人に丁寧に関わり、成長を見守り、援助できる体制を確保できるような制度改正を願うばかりです。

## 職員のつぶやき

私は今年度短期大学を卒業し就職しました。2歳児クラスの担任をしています。  
新型コロナウイルス感染症の中で短期大学に入学しました。登校日も少なく、オンライン授業での学校生活が当たり前の日々でした。学校行事はなく、実習に行けないこともあり、あっという間に2年間の大学生活が過ぎてしまいました。実習での学びがどのくらい大切だったのかということが、就職してよく分かりました。子どもへの配慮や声掛け、接し方など、4月当初は分からないことがたくさんありました。今はどう声掛けをするべきだったのか、あの時はどうしたら良かったか、など先輩に確認し、教えていただきながら、その日を振り替えるようにしています。はじめてのことが多いですが、日々課題を見つけ、達成していき、子どもと一緒に自分も成長しています。

羽村しらうめ保育園 山下 歩美